

患者様各位

回復期リハビリテーション病棟入院時のコミュニケーション能力の保持・障害と 退院転帰および Functional Independence Measure 改善の関連 に関するお知らせ

研究の背景

脳卒中後の回復期リハビリテーションでは、日常生活動作の改善だけでなく、患者様・家族様にとって実質的な目標である「自宅退院」を達成できるかが重要であります。しかし退院先は、麻痺などの身体機能だけで決まらず、同居者の有無などの生活背景、認知機能、支援体制といった複数の要因が影響します。それらの機能評価として広く用いられる Functional Independence Measure (以下、FIM) には認知項目が含まれ、さらにその下位尺度であるコミュニケーションは「理解」と「表出」から構成されています。これらは、指示を理解して課題を安全に実行し、必要な情報を伝え、治療に参加して学習を進めるための基盤となります。したがってコミュニケーション障害はリハビリの効果や自宅退院を妨げる可能性があります。この領域に焦点を当てた検証はこれまでに十分にされてきておりません。

研究の目的

本研究の目的は、回復期リハビリテーション病院に入院した脳卒中患者について、入院時点の FIM コミュニケーション（理解+表出）の得点が、その後の回復をどの程度見通せるかを明らかにすることです。

具体的には、①入院後の FIM 改善量との関連、②退院先（自宅退院かどうか）との関連を検証します。さらに結果の確かさを確認するため、急性期病院（友愛医療センター）入院時のコミュニケーション得点を用いた解析も行い、同様の傾向が得られるかを評価します。

利用する者（被検者）の範囲と研究期間

対象者：脳卒中にて友愛医療センターで治療し、リハビリテーションを目的に豊見城中央病院の回復期リハビリテーション病棟に転院した 18 歳以上の患者様

期 間：2022 年 4 月 1 日～ 2026 年 7 月 31 日

研究に際し行うこと

患者様・家族様へ何らかの介入を必要としない、観察研究です。通常診療において蓄積されていくデータを用いて分析するため、患者様・家族様への身体的・精神的・金銭的な影響はございません。具体的には、通常診療において電子カルテに記載されている FIM、これに加えて患者基礎情報（年齢、同居状況など）を取得します。それらのデータから退院時における FIM 改善と自宅退院の関連を統計的に解析していきます。

研究に伴う患者様の負担・不利益

本研究は既存の診療情報を用いるため、新たな検査・治療、来院、質問票への回答等はなく、身体的・時間的負担は生じません。主な不利益は個人情報漏えいのリスクであるため、匿名

化やアクセス管理等の対策を徹底致します。

患者様の人権擁護

患者様およびそのデータは、個人が判別出来ないよう処理します。またこの研究のために収集したデータは、この研究以外の目的には使用されることはありません。

御不明な点は、下記までお尋ねください。
皆様の御協力に感謝致します。

連絡先

社会医療法人友愛会 友愛医療センター
リハビリテーション科 金城功児
電話:(代表)098-850-3811